

医療法人社団いずみ会 介護職員初任者研修 カリキュラム表

1. 職務の理解		
○到達目標・評価の基準 在宅連携に関わる介護職の活躍の場はどのような現場があるのか、介護保険サービスやその他福祉サービスについて理解し、今後の研修に向けてのイメージを構築することができる。		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	2時間	【講義】 ○ 介護職員が働くサービスの種別はどのようなものがあるか、介護保険サービスやその他介護保険外について理解する。
		【演習】 ○ 介護職員ではなく、利用者側からの視点をもって事例を活用しグループワークでの検討を行う。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間	【講義】 ○ 居宅・施設での役割や実際のサービス提供の仕方やケアプラン作成からサービス提供までの一連の流れ、多職種との連携や社会資源についての知識を深める。
		【演習】 ○ 地域の介護保険サービス事業所を列挙し、グループにてKJ法を活用し種別ごとにまとめる。
合計	6時間	

2. 介護における尊厳の保持・自立支援		
○到達目標・評価の基準 ① 介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての、基本的視点及び不適切な行動を理解する。 ② 介護の目的や展開について、尊厳の保持・QOL・ノーマライゼーション・自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ③ 虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷付ける介護についての基本的なポイントを列挙できる。		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	5時間	【講義】 ○ 人間や社会があるべき姿を見つめながら、人権や尊厳を守ることの重要性を、その背景となる哲学や制度、法律と共に学習し、支援を必要とする高齢者や障害者のあり方の理解を深める。
		【演習】 ○ 高齢者のQOLと介護について事例検討を行う。

② 自立に向けた介護	4時間	【講義】 ○ 介護において生活の世話ではなく、利用者の自立に向けた要支援・要介護状態の予防、もしくは改善や維持を目指した支援でなくてはならないことを理解し、自立に向けた介護の重要性と意義・介護予防や重度化予防について学習する。
		【演習】 ○ 利用者の健康状態や気持ちに配慮しながら、自立を念頭に置いた支援についてグループワークを行う。
合計	9時間	

3. 介護の基本

○到達目標・評価の基準

- ① 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
- ② 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。
- ③ 介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ④ 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ⑤ 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- ⑥ 生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
- ⑦ 介護職に起こりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントの在り方、留意点を列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1時間	【講義】 ○ 利用者の生活の支援について、介護職だけではなく利用者に関わる様々な専門職や家族や地域（住民）と連携して支援することの重要性を理解し、各々の専門性・役割を理解する。地域包括ケアの重要性や介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について学ぶ。 【演習】 ○ 事例から、利用者の希望する生活と専門職が行ったチームケアについての役割についてグループにて検討する。
② 介護職の職業倫理	1時間	【講義】 ○ 高齢者や障害者における社会的制約・不利益について理解し、専門職として社会的責任を十分に理解し倫理に根差した姿勢・支援の方法を学ぶ。 【演習】 ○ 事例から「自分であれば、どの場面でのどのような対応をしたいか」を個人ワーク・グループワークにて考察する。

③ 介護職における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	【講義】 ○ 介護サービスを提供する際に起こりうる事故や、介護職員が媒介となって広めてしまう恐れのある感染症について正しく学び、安全を確保するための事故への備え、環境整備などのリスクマネジメントの考え方や方法について学習する。 【演習】 ○ 事故が起きてしまったときの対応について、どのような対処を行うか事実の把握や家族への説明、再発防止についてグループワークにて検討する。
④ 介護職員の安全衛生	2時間	【講義】 ○ 介護現場において利用者と共に重要な介護職員の健康と安全について、介護職員の安全衛生を守るための事業者の取組や、こころの健康管理について学習する。 【演習】 ○ 心の健康・身体の健康について、健康被害防止について、個人及び事業所での可能な体制についてグループワークにて検討する。
合計	6時間	

4. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携

○到達目標・評価の基準

- ① 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- ② 介護保険制度や障害福祉制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。
- ③ ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- ④ 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- ⑤ 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度などが行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護保険制度	3時間	【講義】 ○ 介護保険制度について、制度創立の社会的背景を読み解き、介護保険制度の意義とその概要を理解する。利用者の自立を支える仕組みやサービスのしくみ、財政的な背景での行政の役割、実際のサービス内容や利用の流れを学習する。 【演習】 ○ 実際に介護認定申請書・認定調査用紙に記入する。

② 医療との連携とリハビリテーション	3時間	【講義】 ○ 医療との連携の在り方について、医療職が行う医療行為と、一定の条件のもと介護職が行うことができる医療行為の境界線を認識し、責任のある介護を提供するため、医療的ケアやリハビリテーションの役割、それに伴う専門職について学習する。
		【演習】 ○ 経管栄養・喀痰吸引機器について実際に触れ、操作など理解を深める。
③ 障害者総合支援制度及びその他の制度	3時間	【講義】 ○ 介護サービスを利用する障害のある方の生活構造・環境・課題について学び、障害者総合支援法の理念・制度の仕組み、障害福祉サービスやその他制度及び支援者との連携について学習する。
		【演習】 ○ 事例について、障害福祉サービスへの結びつけについて個人ワークを行い、サービスの特性について理解を深める。
合計	9時間	

5. 介護におけるコミュニケーション技術

○到達目標・評価の基準

- ① 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきではない）行動例を理解している。
- ② 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ③ 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。
- ④ 言語・視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ⑤ 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	【講義】 ○ コミュニケーションの意義・目的・役割から、コミュニケーションの基本技術・利用者や家族、様々な障害がある方とのコミュニケーションについて学び、関係づくりに必要なコミュニケーション能力を高める。
		【演習】 ○ 利用者の特徴や状況に応じたコミュニケーション技術について、点字・手話・筆談について確認し、実際にグループにてコミュニケーションの実技を行う。

② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	【講義】 ○ チームによる介護において、サービスを有効かつ円滑に提供するために必要な情報の共有化について、記録の意義から効率的な記録の記載方法・報告・連絡・相談の意味や意義、カンファレンスなどの会議や事例検討、担当者会議での留意点などについて学習する。
		【演習】 ○ 事例について、担当者会議を想定した各職種の役割についてグループにてシミュレーションを行う。
合計	6時間	

6. 老化の理解

○到達目標・評価の基準

- ① 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
- ② 高齢者に多い疾患の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	4時間	【講義】 ○ 老化に伴う様々な能力の低下について、各々の個人差を含め、一般的な視点から、老化によりどのように心と身体が変化し、どのような状態になるのかを学習し、高齢者の介護における基本的な留意点について理解する。
		【演習】 ○ 高齢者疑似体験セットを活用した、高齢者に起こる身体の変化について体験し、レポートを作成する。
② 高齢者と健康	2時間	【講義】 ○ 心と身体の変化と共に、高齢者にみられる疾患や障害について学び、疾患や障害の基本を理解し、日常における高齢者の生活支援の留意点を学ぶ。
		【演習】 ○ 血圧・脈拍について実際に計測し循環器障害について理解を深める。
合計	6時間	

7. 認知症の理解

○到達目標・評価の基準

- ① 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。
- ② 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ③ 健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ④ 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、及びそれに影響する要因を列挙できる。
- ⑤ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、及び介護の原則について列挙できる。また、同様に若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ⑥ 認知症の利用者の健康管理の重要性和留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ⑦ 認知症の利用者の生活環境の意義やその在り方について、主要なキーワードを列挙できる。
- ⑧ 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方・悪い関わり方）を概説できる。
- ⑨ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	2時間	【講義】 ○ 認知症高齢者の行動や心理状態の理解を通して、共感的な姿勢での関わりや、認知症高齢者へのケアについての理念を理解する。
		【演習】 ○ 自身が考える認知症高齢者ケアで留意することについてグループワークにて検討する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	【講義】 ○ 認知症という疾患を理解し、一人ひとりの症状や障害に対するケアについて学び、認知症の診断に用いられる評価法や障害の状況や原因となる疾患などの医学的な理解と共に、予防策や健康管理について学習する。
		【演習】 ○ 認知症に似た症状について検証し、その原因となる病気をグループワークにて検討し発表する。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1時間	【講義】 ○ 認知症の中核症状と周辺症状を理解し、行動・心理状態の具体的な現れ方や症状、認知症の高齢者とのコミュニケーションや基本的なケアについて学習する。
		【演習】 ○ 事例から認知症利用者の対応について認知症状を考慮した上での対応についてグループにてシミュレーションを行う。

④ 家族への支援	1時間	【講義】 ○ 認知症の高齢者を支える家族への支援として、介護者への思いの理解や介護職員としてどのように支えるかについて学習する。
		【演習】 ○ 認知症高齢者の家族の負担にはどのようなことが考えられるか、またその対応として、どのような支援が考えられるかをグループワークにて検討する。
合計	6時間	

8. 障害の理解

○到達目標・評価の基準

- ① 障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方を理解している。
- ② 障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ③ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	1時間	【講義】 ○ 障害者への介護にあたり、障害についての基礎的な理解として障害の概念、障害者を支える制度や仕組み、法律について学習する。
		【演習】 ○ 障害についてのイメージと今後どのような支援を行うことが考えられるか個人ワークを行う。
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的理解	1時間	【講義】 ○ 多様にある障害について、視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害・精神障害などについて、それぞれの疾患や症状、介護における留意点について学習し、障害者を正しく理解し、介護の基本的姿勢を理解する。
		【演習】 ○ 身体障害の片麻痺症状について体験し、介護の方法について実技を行う。
③ 家族の心理、関わり支援の理解	1時間	【講義】 ○ 障害者本人の障害受容と併せて重要となる障害児・者の家族の障害受容について、家族の心理とその支援について学習する。
		【演習】 ○ 障害者の家族の抱える心理的・肉体的な負担について検討し、どのような関わりができるかをグループワークにて検討する。
合計	3時間	

9. こころとからだのしくみと生活支援技術

○到達目標・評価の基準

- ① 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ② 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
- ③ 主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ④ 要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ⑤ 利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ⑥ 人の記憶の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。
- ⑦ 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ⑧ 装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ⑨ 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車椅子、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関する身体の仕組みが理解され、指示に基づいて介護を行うことができる。
- ⑩ 食事の意味と食事を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、食事に関する身体の仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑪ 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、入浴に関する身体の仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑫ 排せつの意味と排せつを取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排せつに関する身体の仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑬ 睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関する体の仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑭ ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点・家族への説明と了解、介護職の役割やほかの職種との連携（ボランティアを含む）について列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護の基本的な考え方	3時間	【講義】 ○ 介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行う上での視点について学習し、利用者を主体とする介護の意味を理解する。
		【演習】 ○ 求められる介護福祉士像について、グループワークを行い、各グループでの発表を行う。

② 介護に関するところのしくみの基礎的理解	4時間	【講義】 ○ 記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、老化や障害の受容、適応について学習し、心のあり様を理解し、尊厳を守る介護を学ぶ。
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	【演習】 ○ 自身の自己概念について発表してもらい、高齢者の自己概念との違いと変化について理解を深める。
④ 生活と家事	6時間	【講義】 ○ 生活支援としての家事サービスにおける留意点について学び、介護の専門職としての家事サービスの在り方を理解する。
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6時間	【演習】 ○ 介護職員の行う家事援助の機能についてグループワークを行う。
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	【講義】 ○ 快適な生活を送るために必要な居住環境の整備から、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具（機器）について学習する。福祉用具（機器）について、高齢者だけでなく、家族や介護者の健康を守ることにについても理解する。
		【演習】 ○ 利用者宅の見取り図を確認し、住宅改修が必要な場所、利用可能な福祉用具について検討し、環境整備図を完成させる。
		【演習】 ○ 病気や障害となり、身なりや整容に無頓着とならないよう、身なりを整えることの意義や目的、整容のために必要な支援の方法や技術について学習する。
		【演習】 ○ 爪切りや耳かき、髭剃りなどの介助方法についてグループで実技を行う。 ○ 衣服の更衣について実技を行い、身体麻痺などの個別性について学ぶ。

<p>⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>【講義】</p> <p>利用者と介護者の両者に体力的に大きな負担をかける移動・移乗の介助について、移動・移乗の意義をはじめ、安全で安楽な介助を行うためのボディメカニクス、人体の構造や基本肢位の理解、具体的な介助技術について学習する。</p> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者疑似体験を使用した、高齢者のからだの理解、杖歩行の介助を行う。 ○ 同様にベッドから車いすへの移乗介助を行う。 ○ 車いすでの移動支援について段差の対応について学習する。
<p>⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に受けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者にとって生活の基盤となる、食事に関する介護職員の支援について、高齢者の身体の変化を知り、そのうえで適切な献立、調理法で食事を提供できるよう、食事の意義と目的から、栄養に関する知識、代表的な疾病における栄養や調理さらに食事介助の方法について学習する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害や病気における食生活の個別性について、グループワークを実施する。 ○ 食事摂取時の座位保持の方法、介助についてロールプレイングを行う。 ○ 食事介助の演習を実施し、食事摂取及び飲水時のポイントについてグループワークを行う。 ○ 食後の口腔ケアについて、ロールプレイングを実施する。
<p>⑨ 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な生活動作を伴う入浴における介助をはじめ、清拭や部分浴に関する支援の方法や、利用者の残存機能を活かした支援について学習する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 浴槽への誘導及び介助について実技を行い、浴室での注意点について学習する。 ○ 清拭や手浴・足浴について実技を行う。
<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄に関する基礎知識をはじめ、利用者の尊厳を重視した排泄介助の在り方や具体的な支援の方法について学習する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 麻痺や障害のある方へのトイレへの誘導、おむつ交換の介助方法について実技を行う。また、ポータブルトイレなどの介護用具の使い方を学ぶ。

⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<p>【講義】</p> <p>○ 心身を休息させ、豊かな活動につなげるために重要な睡眠について、睡眠のメカニズムから、心地よい睡眠を確保するための環境や、福祉用具の活用法、快い睡眠のための支援の方法を学習する。</p> <p>【演習】</p> <p>○ 安眠の為に必要な環境の整備や就寝前の支援についてグループワークを実施する。</p> <p>○ 介護ベッドの操作、寝具の整え方の実技を実施する。</p> <p>○ 体位交換の方法や注意点について、実技にて実施する。</p>
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<p>【講義】</p> <p>○ 終末期ケアの基礎知識から、死に至る過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法について、死にゆく人の尊厳を守り、その人らしい最期を迎えるための介護の在り方について学習する。</p> <p>【演習】</p> <p>○ 終末期の利用者に対する対応の仕方や介護職員の役割、家族への関わりについてグループワークを実施する。</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	5時間	<p>【講義】</p> <p>○ 利用者の思いや生活能力等を見極めながら、専門職としての意識を持ち、介護計画を立案し実施する介護職について、支援を行う上で最も重要な介護過程の意義や目的など、介護過程の基本的な視点や姿勢について学習する。</p> <p>【演習】</p> <p>○ 架空事例を基に介護過程を展開し、アセスメント、計画立案、実施及び実施後の評価を行う。</p>
⑭ 総合生活支援技術演習	6時間	<p>【講義】</p> <p>○ 事例紹介</p> <p>【演習】</p> <p>○ 生活や障害状況の異なる事例を通し、具体的な介護内容及び介護の留意点などを、今まで学習してきた内容を踏まえグループで検討する。</p>
合計	76時間	

10. 振り返り

○到達目標・評価の基準

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	3時間	【講義】 ○ 研修を通して学んだこと、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認を行う。
		【演習】 ○ 初任者研修の全過程を振り返り、研修を通じて学んだこと習得したことについて再確認として以下についてレポートを作成する。 「利用者の自立を支援する介護の在り方について」 「利用者の状態像に応じた介護と介護過程について」 「身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性について」 「チームアプローチの重要性について」
② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	【講義】 ○ 研修修了後のキャリアパスについて、継続して学ぶべき技術や知識について理解する。
		【演習】 ○ 介護職員として就業後も継続して学ぶべきこととして以下の題材からレポートを作成する。 「身に着けるべき知識」 「身に着けるべき技術」 「その他、必要と考える知識・技術」
合計	4時間	

カリキュラム合計時間	131時間	オリエンテーション、修了評価筆記試験、修了式は別途下記記載
		オリエンテーション：10分
		修了評価筆記試験：1時間
		修了式：1時間